辺野古に来てください！

聖公会青年委員会の辺野古協働、へのこのこ通信の発信が続けられている中、二〇〇七年四月末、防衛施設局は、辺野古周辺海域で新しい米軍基地建設に向けた作業を始めました。

環境影響評価（アセス法）の事前段階の調査だと称するこの作業は、正確な内容が公表されません。ジュゴンやサンゴの生態調査ということですが、ジュゴンの餌場である藻場や大きなサンゴの育つ海底にカメラやソナーを設置すること自体が環境破壊です。

五月一八日からは海上保安庁を加え二十隻以上の作業船が辺野古周辺に押し寄せ、一斉に機材を設置し始めました。しかし、設置された機材は目印もないまま海面から部品が突き出すなど、周辺漁船や観光船に全く配慮のない危険な設置の仕方です。

また、結果に関わらず、この調査を以って、二〇〇六年五月に日米政府間で合意された辺野古崎V字型滑走路案の埋め立て工事に着手するのは確実と考えられています。

作業には海上自衛隊も協力しているとみられ、自衛隊が市民運動を弾圧するということになりかねません。私たちが支える日本という国は、圧倒的な力と税金を注ぎ込み、米軍基地を作ろうとしています。

十年以上も座り込みを続けてきた地元のお年寄りのもとに集まった仲間は、船とカヌーで作業の中止を訴え行動しています。これは「過激な反対派による危険な阻止行動」ではなく、「完全な非暴力による平和を創る活動」です。施設庁や海保の執拗な暴行に耐えての行動です。

今日も辺野古の米海兵隊基地からは、イラク派兵に向けての訓練か、砂浜を戦車が突進し、沖合いに停泊した艦船に向かいました。それが沖縄の日常にさせられています。

先日亡くなられた、命を守る会代表の金城祐治さんは「辺野古の海の豊かな自然を守り子孫の世代に引き継ぐことが私たちの使命だ」と言っていました。今こそ私たちには、平和を求めて祈り、平和を創る働きに参加することが求められています。

どうぞ、辺野古に来てください。是非、自分の目で見て、考え、行動してください。（名護聖ヨハネ教会／神崎直子）

沖縄週間

今年も沖縄週間／沖縄の旅が、六月二二日（金）から二五日（月）まで、沖縄にて開催されます。テーマは、命どぅ宝 ～キリストの希望は痛みの共感から～。主な内容は、「南部戦跡巡り」、「聖書の分かち合い」。沖縄慰霊の日の二三日は、「平和行進」、沖縄戦犠牲者の名前を読みあげる礼拝へも参加。沖縄教区教会への分宿。教区「慰霊の日」礼拝への参加。締め括りは、辺野古そして騒音被害に悩む北谷町砂辺地区訪問など。詳細は、各教会配布済みの案内書をご覧になるか戸畑へお問い合わせを。（九州教区戸畑聖アンデレ教会／柴本孝夫）

沖縄スタディツアー

八月二三日（木）～八月二七日（月）

辺野古を中心に北部・中部基地周辺で起きている問題について、また、南部戦跡をめぐり、戦中・戦後を通して見えてくる問題について学ぶ。ジュゴンの棲む美しい海でゆっくり過ごす日もあります。

●参加費　九万八千円（航空券、沖縄県内移動費、宿泊費、旅行保険料、プログラム費含む。）

●申し込み　七月三一日迄に、名古屋学生青年センター（〇五二―七八一―〇一六五）まで●主催　名古屋学生青年センター、日本聖公会中部教区宣教部沖縄プロジェクト

神戸

神戸教区では、主に青少年・成年の方々を対象とした祈りと交わり・軽食の夕べ（ハツキン）を2月から教区会館にて開催しています。これまで、二月二日、三月二日、四月六日に開催してきました。五月のハツキンでは、インドネシアヘワークキャンプに行っていた永野拓也さん（神戸聖ヨハネ教会信徒）にお話をしていただきました。六月には管区の「沖縄の旅」に参加を予定している青年の壮行会的な企画を検討中。

二月一〇日～一二日には、神戸教区青年交流会恒例のスキー・キャンプを米子聖ニコラス教会を会場に開催しました。大阪教区の青年も含め一〇名ほどの青年が参加しました。訪問した米子と境の教会では、信徒の方と共に礼拝し、またクッキー作りをしたり、一緒に鍋を囲んだりと良い交わりの時が持てました。

その他に、一月七日に神戸伝道区を中心とした新年会、四月八日にイースター祝会・新人歓迎会、同二九日には、大阪教区の青年たちと合同のバーベキューも行いました。

なお八月五～六日には、広島で神戸教区主催の「平和礼拝」が行われます。ぜひ、一人でも多くの方々のご参加をお待ちしております。もちろん神戸教区以外の方々（特に青年・成年）のご参加も大歓迎です！

さこ田直文（神戸聖ヨハネ教会）